



宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

地域につなぐ
～ 共に前へ
『共生コース』
の取組～

共に学び、生きる共生社会コンファレンス
おおいたでかたろうえ! 「実践発表」

令和6年1月21日(日)





宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

- 宮崎県西臼杵郡唯一の特別支援学校（分校）
- 対象障がい種：知的障がい、肢体不自由
- 高等部のみ設置（1年生：1名、3年生：2名）
- 平成20年度 高千穂高等学校の敷地内に開校



宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

教育目標 「心豊かでたくましく地域社会で生き抜く力の育成」

- 少人数編成を生かし、個に応じた細かく且つ柔軟な教育実践を行うとともに、地域の特色を生かした交流及び共同学習を展開することにより、地域社会で生き抜く力を育てる。

高千穂高等学校と年間70～80時間の交流及び共同学習を実施

今年度より「共生コース」開設

インクルーシブな学校運営モデル事業に係る文部科学省視察





田植え交流



剣道部へ竹刀ストラップ贈呈



茶摘み交流



神舞祭(じんぶさい) [文化の部]



神舞祭(じんぶさい) [体育の部]



畜産交流



世界農業遺産調べ学習

9
2021
No.660

広
報

高 千 穂

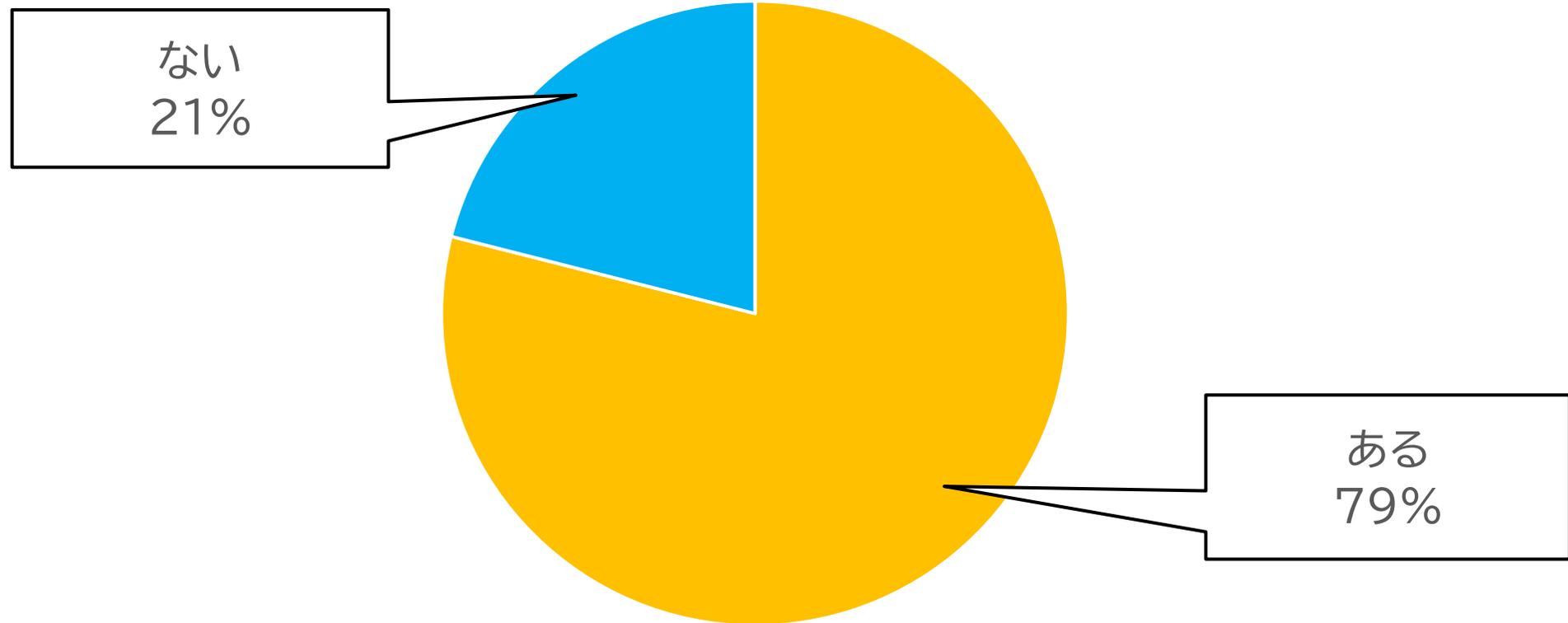
力を合わせ高千穂の空から世界へと ~共に前へ~



パラリンピック共同採火

入学後、延岡しろやま支援学校高千穂校の生徒と挨拶や会話をしたことがありますか。

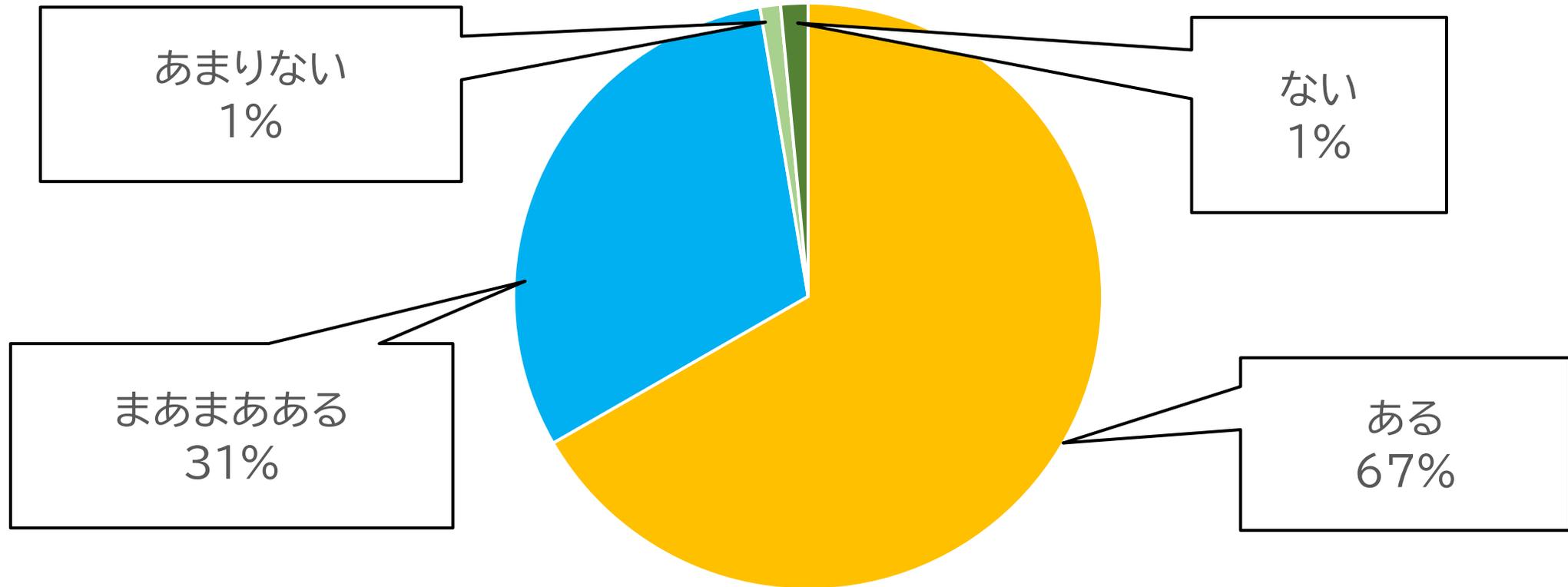
R3 高千穂高校全校生徒(271名)



○ 全校生徒の8割近い生徒が挨拶や会話を交わしている。日常的に交流が行えているといえる。

延岡しろやま高千穂校との交流は意義があると思いますか。

R3 高千穂高校全校生徒(271名)



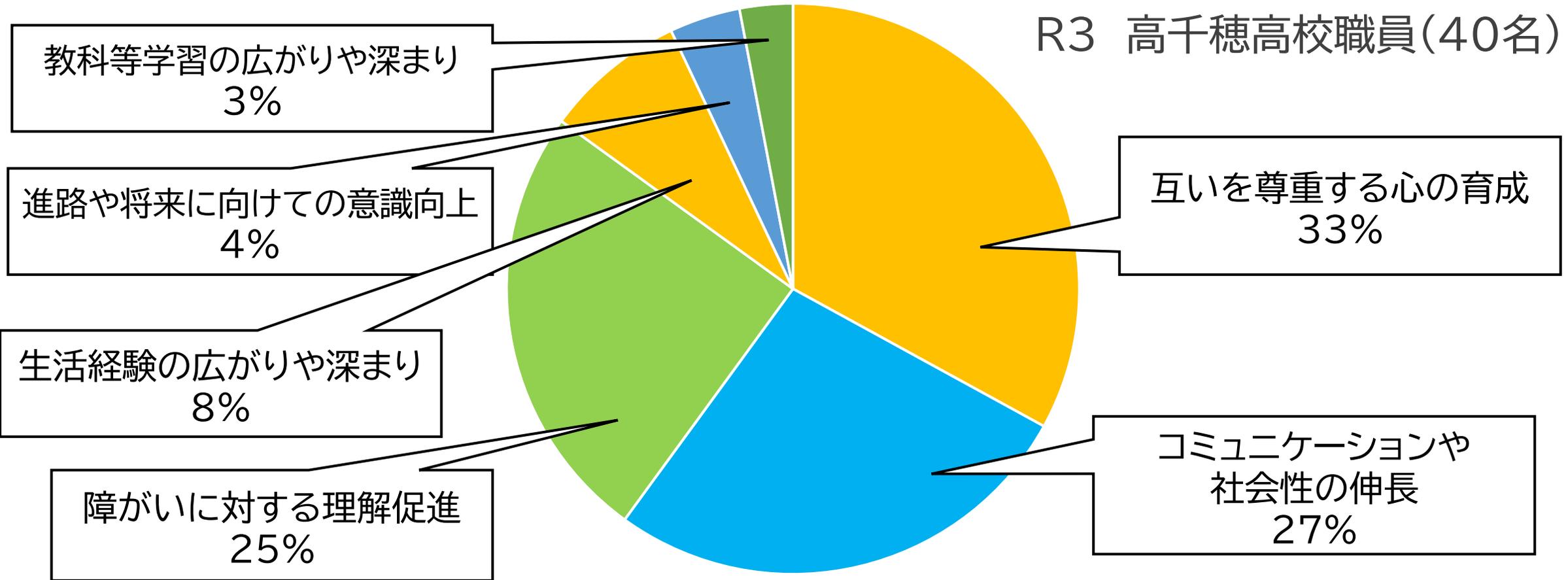
○ 3カ年の交流を積み重ねることを通して、多様性や共生社会について、より深く考えているのではないかと考える。

高千穂高校生徒の感想

- 交流を通して、社会につながる人への接し方を学ぶことができ、とても楽しかったです。楽しむこともできたし、共生社会ということも学べたので良かったです。
- ルールや活動する内容を少し変えれば皆楽しく活動できたので、大事なことだと思いました。
- 「特性であり、個性である」という言葉に深く共感しました。どんな人ともまずは一緒にやり、決めつけてはいけないということを学びました。
- これからの社会は共生社会になっていきます。障害という壁をなくしていき、みんな平等な社会をつくっていきたいです。
- それぞれが、自分にできることを精一杯して、力を合わせて共に生きていけると思いました。

高千穂高校の生徒にとって、どのような意義があると思いますか。

R3 高千穂高校職員(40名)



○ 共生社会の実現に関する項目の比率が高かった。生徒と職員の学びに関する意義に一致が見られた。

宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

令和5年度「共生コース」開設に向けて

地域の仲間と共に学ぶ、特色ある取組・カリキュラム
高千穂高等学校と年間70～80時間の交流及び共同学習を実施



県指定研究『夢×人×地域「社会とつながる特別支援学校」推進事業』
令和元年度～3年度「共生コース」の実践研究



令和4年度 開設準備、地域への啓発・共生社会実現のメッセージ発信
『共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業』



共生コース開設セレモニーの実施

宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

「共生コース」開設セレモニー

- しろやま高千穂校生と高千穂高校生（神楽保存会）
共同神楽演舞
- しろやま高千穂校生・高千穂高校生（生徒会）
詩の朗読・共同手話歌披露
- 両校生徒代表のことば
- 「共生社会実現に向けての誓い」



高千穂高校神楽保存会・しろやま高千穂校生



神楽 共同演舞 練習の様子



下川登神楽保存会 会長 佐藤 英記 氏

地域で神楽保存に取り組んでいる。ブラジルや国立能楽堂など、各地で神楽を披露している。高千穂高校神楽保存会の指導も行っている。



共生コース開設セレモニー（令和4年12月20日）

宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

「共生コース」開設セレモニー（来賓）

- 県教育委員会（生涯学習課、特別支援教育課）
- 高千穂町・五ヶ瀬町・日之影町 教育長
- 両校PTA代表、学校評議員・学校運営協議会代表
- 西臼杵小中学校校長会 会長
- 西臼杵子ども・障がい者ネットワークセンター長
- 西臼杵地域障がい者自立支援協議会 会長
- 下川登神楽保存会 会長

地域の新聞、西臼杵各町の広報担当に取材依頼



地域へ啓発



両校校長 挨拶



佐藤氏による神楽紹介



神樂共同演舞

「共生コース」開設セレモニー



神楽共同演舞

「共生コース」開設セレモニー



共同手話歌披露



共生への誓いの文書

「共生コース」開設セレモニー



共生社会実現に向けての誓い 「共に、前へ」

平成20年度「延岡しろやま支援学校高千穂校」の開校以来、「延岡しろやま支援学校高千穂校」と「高千穂高等学校」は、地域で学び、地域で生きる仲間として、共に励まし、支え合い、学び合いながら、歩んできました。

私たちは、これからも、誰もが互いに人格と個性を尊重し支え合い、多様な在り方を相互に認め合うことのできる共生社会の実現・発展に向けて、共に前へ進んで行くことを誓います。

令和4年12月20日

県立延岡しろやま支援学校高千穂校 県立高千穂高等学校

～延岡しろやま支援学校高千穂校「共生コース」スタート～

4月10日(月) 県内唯一の特別支援学校の分校である「延岡しろやま支援学校高千穂校」の始業式が行われました。今年度より「共生コース」をスタートすることとなり、延岡しろやま支援学校高千穂校 出水校長は、「多様な価値観を尊重する人格形成を行ってほしい」、高千穂高等学校 長友校長は、「共生社会実現に向けて両校一緒に前に進んでいきたい」とこれからの両校の歩みに期待を膨らませています。



日之影町広報誌

TEL: 0982-73-1077

「共生社会」の実現に向けて、共に前へ
宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校
「共生コース」スタート



「共生社会実現に向けての誓いの文書」を手にする笑顔の長友校長(左)と出水校長(右)

4月10日(月) 延岡しろやま支援学校(出水傍二校長、6人)は20日、多様な価値観を尊重するインクルーシブ教育の推進や共生社会の実現を目指す「共生コース」の開設セレモニーを開いた。県、高千穂、日之影、五ヶ瀬町の教育関係者ら約50人が出席。生徒による朗読や手話歌などの披露が目玉で盛大に祝った。

五ヶ瀬町広報誌

延岡しろやま支援学校高千穂校

共生コーススタート ～「共生社会」の実現に向けて、共に前へ～

延岡しろやま支援学校高千穂校啓事

県立延岡しろやま支援学校高千穂校(出水傍二校長、3名)の始業式が行われました。延岡しろやま支援学校高千穂校は、県立高千穂高等学校(長友美紀校長、265名)の敷地内にあり、県内唯一の特別支援学校の分校です。

延岡しろやま支援学校高千穂校と高千穂高等学校は、年間約80時間もの交流および共同学習を実施しており、県内唯一また全国的にも珍しい取り組みを行っています。

本年度、延岡しろやま支援学校高千穂校は、この特色あるカリキュラムを「共生コース」と名付け、スタートすることになりました。「共生コース」スタートにあたり、両校は共生社会実現に向けての誓いの文書を交わり、互いに人格と個性を尊重し支え合い、多様な在り方を相互に認め合う共生社会の実現に向けて共に前に進むことを確認しました。

出水校長は「同じ高校生どおしが将来に向けて学び合うことで多様な価値観を尊重する人格形成を行ってほしい」。長友校長は「共生社会実現に向けての非常に貴重な重要な取り組み。楽しく学び合うことで両校一緒に前に進んでいきたい」と、これからの両校の歩みに期待を膨らませています。



「共生社会実現に向けての誓いの文書」を手にする笑顔の長友校長(左)と出水校長(右)

高千穂町広報誌

教頭または教務主任までご連絡ください。

高千穂高校剣道場で開かれた延岡しろやま支援学校高千穂校「共生コース」開設セレモニー(20日)



この特色ある教育課程に対して19～21年度、県教委の「夢×人×地域」社会とつながる特別支援学校に推進事業を活用した指定研究を実施。就労・自立を支援する教育内容を充実させ、地域産業を担う人材を育む「共生コース」として編成、23年度からスタートすることになった。

式は同校体育館(高千穂高校剣道場)であり、両校の生徒が高千穂の夜神楽、朗読、手話歌を披露。土持翔太郎さん(しろやま支援学校3年)が「交流活動では、高千穂高校の皆さんに力をもらい、苦手なことも下を向くことなく頑張ってきた。入学してから大きく成長できたと感じている。佐藤凛さん(高千穂高校2年)が「初めての交流活動で緊張していた時、しろやま支援学校の皆さんが優しく接してくれて楽しかった。これからも共に

学ぶ仲間であられることをうれしく思います」と述べ、甲斐翔汰さん(しろやま支援学校3年)と田上翔太さん(高千穂高2年)が共生の誓いを交わした。

出水校長は「引き続き友と共に学びながら、共生社会の実現に向けて取り組んでいく。西臼杵地区で育った子どもたちが互いの絆を深め、生き生きと暮らせる未来づくりに貢献できるものと期待している」と話した。

同校は2008年、延岡わかあゆ支援学校高千穂校として、県立高千穂高校(佐伯浩美校長、263人)の敷地に開校した。以来、高千穂高と連携した取り組みを継続。12年度に現校名となり、合同文化祭や稲刈り交流など年間約70～80時間の「交流および共同学習」を導入している。

校の生徒が高千穂の夜神楽、朗読、手話歌を披露。土持翔太郎さん(しろやま支援学校3年)が「交流活動では、高千穂高校の皆さんに力をもらい、苦手なことも下を向くことなく頑張ってきた。入学してから大きく成長できたと感じている。佐藤凛さん(高千穂高校2年)が「初めての交流活動で緊張していた時、しろやま支援学校の皆さんが優しく接してくれて楽しかった。これからも共に

露演目で盛大に祝った。

あいさつする出水校長(20日)

あいさつする出水校長(20日)

延岡しろやま支援学校

高千穂校に「共生コース」

就労・自立支援の教育内容充実 23年度開設

令和5年度「共生コース」スタート

地域につなげる①

高千穂高校卒業生



令和5年度「共生コース」スタート

地域につなげる①



高千穂夜神楽 33番の ひとつ 八鉢 (やつばち) の ポーズで

令和5年度「共生コース」スタート

地域につなげる②



延岡しろやま支援学校高千穂校
卒業生



令和5年度「共生コース」スタート

地域につなげる②

夕刊デイリー新聞

全国障害スポで活躍 町長に報告

卓球 工藤さん 陸上 飯干さん 高千穂

10月に鹿児島県で開催された全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」で活躍した工藤美樹雄さん(46)と高千穂町若戸、県立延岡しりやま支援学校3年の飯干愛絵さん(18)は、同日町長に報告し、町長を訪ね、結果報告した。

工藤さんは、一般卓球に県代表として5年連続の出場。全3大会をきろくづくりに振り分けたブロンズで1勝1敗の成績を取った。

飯干さんは、陸上競技で銀メダルを獲得した。初出場で県選手団の旗手も務めた飯干さんは、陸上女子400mで1分7秒33、800mで2分33秒07をマークし、2冠を達成した。

町長は、その結果に併せて、好成績を収められたこと、大会を盛り上げたこと、今後の練習を積み重ね、連戦での金メダル獲得や大会記録を塗り替えるような活躍を期待している」と祝福した。

工藤さんは「出場報告で(自己最高の)銅メダル以上を目指す宣言させてもらい、その目標を達成できたのが安心して、大会ではええも多かった。練習を重ねて次こそは金メダルを取りたい。」

飯干さんは「1位を取りたい」という気持ちで走ったので、いつも金メダルが取れてうれしい。陸上で学んだ粘り強さや努力の大切さを忘れず、今後の学校生活を頑張りたい」と喜んだ。



特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」10月に鹿児島県で開催された「特別全国障害者スポーツ大会」に出場した工藤美樹雄さん(若戸)と延岡しりやま支援学校高千穂校飯干愛絵さん(上野)が、大会の結果報告に町長室を訪れました。

藤さんは、卓球競技少年男子に出場し銀メダルを獲得。飯干さんは、陸上競技少年女子400mと同じく800mに出場し、見事2種目とも優勝。金メダル2つを獲得し2冠達成の素晴らしい成績を収めました。

宮崎日日新聞

全国障害スポ・陸上少年女子400、800m 飯干さん 延岡支援学校3年 高千穂校3年 2冠

高千穂町・延岡しりやま支援学校高千穂校3年の飯干愛絵さん(18)は、鹿児島県で開催された特別全国障害者スポーツ大会(10月28～30日)の陸上・知的障害者少年女子400m、800mで優勝し、2冠を達成した。飯干さんは同校ただ一人の陸上部員。励まし合う仲間がいなかったモチベーションの維持が難しく、一時は退部も考えたが、持ち前の粘り強さで努力を重ね、快挙を成し遂げた。



みやざき SDGs

後、いち早くその才能を見抜いた陸上部顧問の荒川啓介教諭(42)の勧めで1年の冬に入部。1学年上の先輩2人と切磋琢磨してきた。だが2人は今年3月に卒業。「先輩に負けたくないとの気持ちで頑張っていたけれど、一人になると練習がきつくなった」。めげそうになり、やめたいと思うこともあったという。

それでも先生たちの支えでやる気を取り戻す。起伏のある町内での走り込みや自宅での筋トレをこなし、スピードと持久力が向上。試合に出るたび、自己ベストを更新した。そして迎えた全国大会。専門の800mは自

努力重ね快挙「うれしい」



2冠を達成した飯干愛絵さん(右)と陸上部顧問の荒川啓介教諭

己ベストの2分33秒、400mも1分7秒で制覇した。「家族や学校の先生、地域の人から『おめでとう』と言われて、うれしさが日に日に増している」とほにかむ飯干さん。荒川教諭は「飯干さんは、もともとおとなしくてコミュニケーションも苦手だったが、陸上と出合ったことで、自信が付いて笑顔が増えた」と、教え子の成長ぶりに目を細めた。(若切康一郎)

令和5年度「共生コース」スタート

地域につなげる③



夕刊デイリー 2023年(令和5年) 12月 20日 (水曜日) (6)

TOWN

製作した雑貨を販売

延岡しろやま支援学校高千穂校

感謝込め、元気いっぱいPR

県立延岡しろやま支援学校高千穂校(出水郡三枝長、3人)の校外販売学習は、高千穂町三田井のがまたせ市場売所奥の蔵であった。全校生徒と教諭が丸となって手作りの雑貨を販売。大勢の買い客に真心込めた商品を手渡した。同校は昨年12月、多様な価値を尊重するインクルーシブ教育の推進や共生社会の実現を目指す共生コースを開設。心豊かだけでなく地域社会で生き抜く力の育成を教育目標に掲げ、地域と連携した取り組みにも力を入れている。校外販売学習は、勤労の精神や商売の楽しさを学ぶとともに、日頃の活動の成果を披露する場にとり、約2カ月前に企画。関係機関などへ手書きのチラシを配って広報するなど準備してきた。店頭では生徒がサンタクロース、教諭がトナカイに扮ふし、教育課程の一環である作業学習で製作した雑貨12種をPR。同校と同じ敷地内にある県立高千穂高校の剣道部とコラボレーションした竹刀ストラップや、隣接処分される机・椅子をリメイクした「青春のハイブデスク」「チェア」、学校所有の密焼いた「番煎ぎ」を販売する商品などを勧めた。スタート時には、教諭の生演奏に合わせ、「ハッピークリスマス」「ジョン・レノンと東京VELOCITY」「サンオールドスター」を歌唱。地域の一員としていそいそと目を止め、こやかに吟味する買い物客も多く見られた。竹刀ストラップや肉植物などを購入したという鬼八の蔵従業員も話した。

「この日の売り上げは、今後の学校活動に活用される。来年1月25日には、会場で2回目の販売学習を予定。時間は午前10時半〜午後4時0分。3年生の森隆喜さん(18)は、想像していたよりたくさんの人に買ってもらううれしかった。社会人になっても同じような機会があれば、きょうの経験思い出し頑張りたい」と話した。

高千穂高校の剣道部とコラボレーションした竹刀ストラップや、隣接処分される机・椅子をリメイクした「青春のハイブデスク」「チェア」、学校所有の密焼いた「番煎ぎ」を販売する商品などを勧めた。

スタート時には、教諭の生演奏に合わせ、「ハッピークリスマス」「ジョン・レノンと東京VELOCITY」「サンオールドスター」を歌唱。地域の一員としていそいそと目を止め、こやかに吟味する買い物客も多く見られた。

竹刀ストラップや肉植物などを購入したという鬼八の蔵従業員も話した。

「この日の売り上げは、今後の学校活動に活用される。来年1月25日には、会場で2回目の販売学習を予定。時間は午前10時半〜午後4時0分。3年生の森隆喜さん(18)は、想像していたよりたくさんの人に買ってもらううれしかった。社会人になっても同じような機会があれば、きょうの経験思い出し頑張りたい」と話した。

目録に掲げ、地域と連携した取り組みにも力を入れている。校外販売学習は、勤労の精神や商売の楽しさを学ぶとともに、日頃の活動の成果を披露する場にとり、約2カ月前に企画。関係機関などへ手書きのチラシを配って広報するなど準備してきた。

店頭では生徒がサンタクロース、教諭がトナカイに扮ふし、教育課程の一環である作業学習で製作した雑貨12種をPR。同校と同じ敷地内にある県立

サンタクロースに扮して接客する延岡しろやま支援学校高千穂校の生徒

高千穂高校の剣道部とコラボレーションした竹刀ストラップや、隣接処分される机・椅子をリメイクした「青春のハイブデスク」「チェア」、学校所有の密焼いた「番煎ぎ」を販売する商品などを勧めた。

スタート時には、教諭の生演奏に合わせ、「ハッピークリスマス」「ジョン・レノンと東京VELOCITY」「サンオールドスター」を歌唱。地域の一員としていそいそと目を止め、こやかに吟味する買い物客も多く見られた。

竹刀ストラップや肉植物などを購入したという鬼八の蔵従業員も話した。

「この日の売り上げは、今後の学校活動に活用される。来年1月25日には、会場で2回目の販売学習を予定。時間は午前10時半〜午後4時0分。3年生の森隆喜さん(18)は、想像していたよりたくさんの人に買ってもらううれしかった。社会人になっても同じような機会があれば、きょうの経験思い出し頑張りたい」と話した。

令和5年度「共生コース」スタート

地域につなげる③



成果

- 交流及び共同学習に、生涯学習支援の観点も加えることができ、充実した教育活動を行うことができた。障がいのある、ないに関わらず、共に学び続ける生涯学習につながる貴重な学びの機会となった。
- 卒業後を見越し、地域へつなげる取組を行うとともに、それを広く情報発信することは、生徒が将来、地域の中で様々な人と共に学び続けるための環境作りに役立つことが分かった。
- 地域の仲間と共に学び、地域へつなげる「共生コース」の取組は、生徒たちの卒後の生きやすさ・暮らしやすさにつながり、ひいては、誰もが互いを尊重し合い、認め合う「共生社会」の実現につながることを実感できた。

課題

- 社会自立のために、就労への支援に加え、余暇や生涯にわたる学びへの支援も保障する必要がある。生涯学習に関する地域の情報を収集整理し、情報提供を行っていく必要がある。
- 地域の生涯学習に携わる方々へ向けての学校見学などの情報発信や外部講師の依頼など、連携充実に関する取組も合わせて行っていく必要がある。



宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

地域につなぐ
～ 共に前へ
『共生コース』
の取組～

共に学び、生きる共生社会コンファレンス
おおいたでかたろうえ! 「実践発表」

「共生社会」へ向け『共に、前へ』



御静聴ありがとうございました